

会 議 等 結 果 報 告 書

名 称	自治基本条例（案）の地域説明会
日 時	平成20年11月7日(金) 午後7時00分～午後9時00分
場 所	公民館大ホール
出席者	町民12名、議会議員5名(説明者：米澤議員、中村議員、出席：岩田議員、村上議員、岩崎議員) 町民生活課長、町民生活自治推進班：北越主幹、床鍋主査 合計20名
内 容	<p>1 開会 町民生活課長の司会により進行。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民生活課長から自治基本条例の取組みの概要を説明。 ・米澤議員から挨拶を行う。 ・町民生活課長から日程を説明。 <p>2 自治基本条例（案）の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治推進班主幹から説明。 ・米澤議員から第4章議会の条項について説明。 <p>3 質疑・意見交換（20時30分～21時00分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条例に説明責任が書かれている中、説明されたが聞いている方としては、黙読しても追いつかないスピードで説明され、その上でアンケートに答えてほしいといわれても、説明の内容が分からない。前半の説明は分かったが後半は分からなかったので、端折らないでほしいと思う。 <p>町民生活課長： 時間をかけて説明させていただきたいと思うが、説明が長くなれば聞く側も負担になることから、端追ったところと内容で重要なポイントは区分して説明している。後半、端折って説明した17条から30条に関しては町が当然にしてやらなければならない基本的なルールである。詳しくは、町民に關すること、まちづくりの基本原則などを説明させていただいた。この条例は出来て終わりではなく、守り育てていく条例で、今後も知っていただく機会を設け、出前講座などを活用していただきたいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共助について、地域で解決していくことが書かれている。住民会や町内会の役割もあると思うが、どこまで地域に入って解決していかななくてはならないのか。福祉に関しては縦割りで、民生委員、福祉員、住民会があり横のつながりが分からない。共助としてどこまで住民会に求められるのか。 <p>町民生活課長： 自助共助に関して、以前の財政が安定していた時代はA B Cの各事業が実施できた。町の予算は10年前100億円だったものが現在は60億円と4割も減った。これまで出来たA B Cの事業が出来なくなってくる。どれをどうやっていくかは住民の皆さんと共に考えていかななくてはならない。Aの事</p>

業をやめなくてもちょっと工夫すれば出来ることがある。例として、地域の方がボランティアで取り組んでいる地域の安全パトロールがある。色々な発想によって町が出来なくても地域で出来ることもあると思う。地域の集まり（住民会）だけではなく、NPOやボランティアの活動も含めたものが共助。少子高齢化の中、町の公助にも限界が出てくると思う。これからは自助から共助へ、そのような時代に入ってくるので、今から体制を整えてほしい意味も含めて掲げている。

- ・今日の説明会は、内容的に掘り下げた説明があると思ったが、以前と変わっていなくがっかりした。町長、議会がやるべきことは今までやってきているのに、あえて取り上げる必要があるのか。町民のやるべきことが具体的に分からない。町民の知る権利と参加する権利があるが、どんな場面なのかを知りたい。そうしないと町民は納得できないと思う。

町民生活課長： 説明会には2回目、3回目の方もいる。重要な条例になるため今回の説明会を開催しているが、初めて聞く方を対象にした説明になっていることに理解をお願いしたい。ご意見のように具体的なことを書くことも一つの方法と思う。情報共有と参画は言葉では簡単だが、説明会は本日で3日目、初日16日、昨日13人の参加。これまでも出前講座などで説明を行ってきており、今回もたくさんの方に参加してほしいと期待を込めていたが少人数になっている状況。まずは情報を共有することが大切と思う。町からの情報を受け取ってもらい興味を持ってもらい、その上で参加・参画してほしいと思う。町民のしてほしいことなどは、条例に見直し規定を設けていることから、条例の内容がうまく絡み合った上で、5年後に見直しし取り入れていくことが良いと考えている。

- ・中央集権から絶対に地方分権にしないとダメなのか。

町民生活課長： 北海道の開拓など、地域が協力して社会を築き、どうしても出来ないことを町が担ってきた歴史がある。住んでいる人がその地域を良くしていくこと、町を作っていくことが本来であり、その姿にしていくことが分権と思う。その上からも、地域の特性を生かしたまちづくりが必要と思う。

- ・江別市は札幌市の衛星都市として栄え、札幌市で働く人が多く住んでいる。今は、高齢化して自治活動もままならない状況と言われている。上富良野は農家を継ぐ人がいない状況で田畑が維持できるのか心配される。また、介護してほしい人だらけで若者のいない町になってしまわないか。町も予算が無い、だからといって住民で何とかしろというのが大変である。自衛隊の削減などマイナス要素ばかりで心配になってしまう。

町民生活課長： ご意見は切実に感じている。町の高齢化比率も20%台から30年後には40%台へと、10人に4人がお年寄りの社会を迎える。そのような中、福祉サービス全てを公的に担えなくなることが考えられる。地域も65歳以上の人が増え、地域内で除雪や買い物など、ちょっとしたことからサポートすること、今から助け合いを進めてほしいと思う。町も議会も町民もみんな

なで考えていくための理想ともいえる条例であるが、自助共助を今から進めていくことが大切と思っている。

- ・町の財政は年々厳しくなっていくが、色々と節約しなければならないのではないかと。

町民生活課長： 町では 10 年近く行財政改革を進めてきており、人件費などの削減を行ってきている。改革に当たっては極力サービスの低下招かないよう理事者の意向を持って進めてきており、この 10 年で予算は 6 割ほどになっている。中には、一部サービスを縮小したり、住民に負担してもらったりして現在に至っている。行政の効率化はエンドレスの問題であり、町としても努力していきたい。

4 閉会 (21 時 00 分)